

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500513		
法人名	有限会社ウェルフェア		
事業所名	グループホームかがやき	ユニット名	東ユニット
所在地	宮崎市佐土原町下田島12373-1		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成30年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4571500513-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

整形外科有床診療所に併設しているグループホームです。施設は二階にありますが、一階にはリハビリテーションの施設等があり、理学療法士のリハビリを受けることが出来て、緊急時や日ごろの体調の変化等の医療的な面でも併設の医院に協力をいただき、いつまでも元気に過ごすことが出来ます。また、ターミナルケアもご本人様の尊厳を保ちながら、自然な形でご家族と協力しながら行うことが出来ます。裏庭には畑や果樹園があり、季節の果物のサクランボ、ブルーベリー、レモン、きんかん等収穫をして、ジャムなどを作って楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは母体の整形外科医院や関連のデイケアと同じ建物の中にあり連携して運営している。利用者のほとんどが同じ建物にある母体の整形外科医院をかかりつけ医としており、受診や急変時に対応ができ、利用者が家族も安心して生活できる環境となっている。また、看取りについても、利用開始時に本人や家族と充分話し合い、指針を説明し同意を得ており、医師や職員、関係者と方針を共有し、前向きに取り組んでおり、看取りの実績も多くある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	東ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念に基づき常に意識しながら研修を重ね、実践の努力をしている。		職員全員で話し合い作成した理念を、職員会議やミーティングで確認し、その理念を踏まえて、いきいきとかがやく生活の実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイケアでの行事に来られるたくさんのボランティアさんとの交流や、施設内での誕生会等の行事に来て下さる方たちとの交流が多くある。		ホームの夏祭りや行事に地域のボランティアを招き交流を図っている。ただ、近隣住民との交流や自治会、学校、地域行事への参加等の地域との交流が若干少ない。	ホームが地域との基盤を築いていくためには、地域行事への参加や自治会との交流等を積極的に深める必要があり、その取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修は常に事例を通して行い、スタッフの能力は向上していると思われるが、地域にはなかなか実践できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には区長さんやご家族、訪問看護事業所等の参加をいただき、常に最新の情報共有と医療的な研修を行い、ご意見をいただきながらサービス向上に取り組んでいる。		今回、民生委員がメンバーに加わることで、会議の充実を図ることが出来た。会議で出された助言や情報提供等は運営に反映させサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターや区長さん等の参加をいただき、当事業所での健康管理やケアの方針等をご理解いただき、地域での課題や困難な事例の検討を行ったりしている。		市の担当者からは、運営上の課題や介護保険の疑問点等について指導や助言を受けている。また、市が主催する研修会等に参加して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束の弊害は認識しており、拘束は行わないケアを実践している。		管理者と職員は身体拘束の研修会や勉強会に参加して身体拘束の弊害を学び理解を深めている。職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は常に職員間で研修を重ねており、言葉かけも全員で気を付ける様にお互い話し合い注意しながら業務を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	東ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議等でも周知を行っており、職員にはご利用者様の立場になって尊厳を守りながら全てのケアを行うようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の説明は文書に沿って行っており、疑問点やできることできない事の説明を十分に行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は施設内の見やすいところに掲示している。また苦情やご意見があったときは迅速に対応を行っている。		運営推進会議に家族の代表が参加して、意見や要望を表せる機会を設けている。また、家族の来訪時やホームの行事開催時に本人を含めて話し合いの場を設け意見を聞き、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送り時にも意見をどんどん言ってもらいすぐに対応をし改善を行っている。		職員会議やミーティングで、職員の意見や要望を表せる機会を設けている。また、業務改善受付書を作成して、職員の意見や提案を反映させる体制を整え運営に生かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議、研修を通して個人個人の資質の向上に役立つ研修を重ね、やるき、向上心、資格取得に協力体制を整えている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議、サービス向上委員会での研修、全体研修等を通して常に研修を行い問題や困難事例が起きればすぐ改善研修を行い、スタッフの資質向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティアの方たちとの交流や行事、地域の研修等に参加し常に新しい知識を入れてサービス向上に力を入れている。			

自己	外部	項 目	自己評価	東ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に様子観察を行いご本人の不安や不満に早期に対応することを心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調の変化の報告や、来所時のご本人様の様子の報告や不安不満はいつでも言っていたるように常に伝えている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのみではなく常に医療機関とのつながり、受診、リハビリを通じて顔なじみの関係が出来ており、安心して過ごすことが出来る。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、ご利用者様一人一人に何らかの役割を持ていただきながら、お互い様という協力関係が出来ている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ訪問回数を増やしていただき、お茶の提供等で楽しい時間を過ごしていただくように協力を常に行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく知人の訪問もたくさん来ていただけるように工夫をしている。		馴染みの関係が途切れないように、家族や知人、友人がいつでも気軽に来訪し、利用者と親しく懇談してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。また、家族の協力を得て自宅訪問や墓参りをする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おひとりづつできることの協力をいただき役割をもって家族のように暮らせるよう支援を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	東ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者様には特に連絡は取っていないがご相談があればいつでも対応は可能である。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランやアセスメントを通じてご本人ご家族の要望や思いを十分理解できるようにご利用者様の立場にたって検討を行っている。		日々の会話や暮らしの中から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族や関係者からの情報を収集して参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人様ご家族から聞き取りを行いながらご本人様の得意な事、お好きなことが実施できるよう支援を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を観察してご本人のできることを把握し自立支援に協力をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族から聞き取ったり、ご本人様の希望、楽しみを把握してできるだけ昔お好きだったことを把握し楽しんでいただけるレクリエーションの設定を行っている。		本人や家族、関係者の意向や要望を取り入れ、職員の意見や気づきを反映した介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング等で職員の観察からの気づきを大いに活用し実践している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様とご家族の関係性を理解したうえでご家族の負担にならない介護の援助がいただけるように配慮をして良好な家族関係が築いていけるよう援助を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	東ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で区長さんや地域包括支援センターの方の意見を踏まえ施設運営に生かしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設しているので必要に応じて十分な医療が受けられるし、主治医の専門医療が必要であれば支援を行っている。		本人や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。母体の整形外科医院をかかりつけ医としている利用者が多く、受診や急変時の対応についても連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護センターと契約し、ご利用者様の健康管理はできているし、職員にも看護師がいるので支援は十分にできている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入退院には入院先の医療機関と密に連絡を取りスムーズな受け入れが出来ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは併設の医療機関の協力もいただき、常に行っておりスタッフの体制は整っている。		利用開始時に看取りに関する指針を利用者や家族に説明し同意を得ている。医師や職員、家族、関係者と方針を共有し、前向きに取り組んでいる。看取りの実績も多くある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的に併設の医療機関ですぐに十分な医療がうけられており、スタッフも器具の取り扱いなどは医療機関の指導の下訓練できている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導の下、避難訓練やAED研修等を行い職員、ご利用者様も防災意識を持っていただいている。		消防署の指導の下に、防災避難訓練を母体の整形外科医院や他の施設と合同で年2回実施している。食料や飲料水等、災害時の備蓄もしている。	

自己 外部	項目	自己評価	東ユニット	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁時の声かけ、トイレ誘導時の声かけも他者に気づかれないような言葉かけ、配慮を行っている。	接遇研修を定期的実施し、職員は利用者の人格を尊重した言葉かけやプライバシーの確保に理解を深めている。特にトイレへの誘導や入浴時の対応には細心の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が業務優先にならないように、できるだけご利用者様のペースに合わせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのご利用者様のお好きな事ややりたいことを聞き取り毎日生き生きと楽しんでいただけるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて、ご家族の協力もいただきながら身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おぼんふきやテーブルふきなど協力いただきながら一緒に準備を行っている。	管理栄養士がメニューを作成し、カロリーの計算を行ったバランスのとれた食事が提供されている。利用者の好みを聞き、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分、排せつのチェック表を作り職員が確認しながら、それぞれの食形態に合わせて提供して食事量が低下しないように支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導の下、毎食後の口腔ケアをそれぞれのご利用者様の状況に合わせて行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	東ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンを職員で話し合い、自立に向けた支援を行っている。		排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるよう自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤等だけに頼らず、ORS(経口補水液)を施設で作って脱水予防を行い、良好な排泄の支援を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日はご利用者様ごとに決まっているが、失禁時とかはいつでも入浴ができる体制である。		入浴は基本的には利用者ごとに決めているが、希望があればいつでも入浴が出来るよう柔軟に支援している。入浴を拒む人には、タイミングよく声掛けする等工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中レクリエーションや手芸をホールに集まってにぎやかに実施し活動性を上げて夜間帯はゆっくり安眠していただけるように支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を参考にしながら忘れ、誤薬等が無いように見守り、介助を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人一人の趣味、希望に合わせて野菜、花づくり、散歩果物収穫など昔に戻って楽しんでいただいている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時に庭の散歩に行きブルーベリーやレモンの収穫を楽しんでもらっている。		ホーム周辺の散歩や庭のレモンの収穫等、出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。家族の協力を得て自宅訪問をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望によってジュースを買ったりお菓子を 買う環境がある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使ってもらえるし郵便はあ ずかって出す支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレやお風呂は張り紙で解りやすく工夫してあり居室もお好みの絵や作品でご本人が自分の部屋だと認識できるよう支援を行っている。		採光や温湿、換気等利用者が快適に生活できるよう配慮している。リビングには利用者と職員が作った季節感のある作品が飾られ、利用者がゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にも、いつでもテラスに出ることが出来るし、テラスでは野菜を育て収穫を楽しむ事もできる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人様のお好きなものをご家族にもってきていただき、落ち着いていただける工夫をしている。		家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。利用者の好みの調度品や小物、家族の写真等が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の日課の歩行訓練がしやすいように施設の廊下は障害物の無いように整備し、日々訓練を行っている、また各部屋にベランダがあり利用できている。			